

新宿連絡会 News

新宿連絡会（新宿野宿労働者の生活・就労保障を求める連絡会議）発行

連絡先：東京都台東区日本堤1-25-11 山谷労働者福祉会館気付

☎03 (3876) 7073/030 (818) 3450

カンパ送り先：郵便振替口座00170-1-723682「新宿連絡会」

vol.4 1998年4月22日

5・1全都野宿労働者統一メーデーへ

全ての野宿の仲間に屋根と仕事を！

2月7日の西口地下火災という事態を受けて、私たち新宿連絡会はダンボール村自主撤収という決断を行ない、2月14日をもって西口地下広場を自主退去しました。過去数年間、「ホームレス問題」の象徴として良くも悪くも世間の注目を浴びた新宿西口のダンボールハウス群は消滅し、今後、社会的な無関心の中で「問題の所在」が今まで以上にわかりにくくなっていく危険性もあります。

しかし火災に乗じた強制排除を許さず、行政から短期収容で終わらない「被災者対策」＝「自立支援事業」を引き出した新宿野宿労働者の闘いは、野宿拠点がなくなったからといってその歩みを止めるものではありません。臨時施設「なぎさ寮」に入った仲間たちは寮内で「生活改善要求委員会」を結成し、仲間の声を集めて行政にぶつけることで、「どこにいても仲間のつながりがあれば闘える」ことを証明しました。

また今回の対策は西口地下のダンボールハウス居住者のみが対象であったため、新宿にはまだ約400人の仲間が厳しい野宿生活を強いられています。新宿に残った仲間は炊き出し、パトロールといった「仲間の命を仲間を守る」活動を今まで通り続けていくと共に、寮の仲間、全都の野宿の仲間と結びついて、「屋根と仕事」を求める新たな対行政闘争を開始しています。新宿野宿労働者の闘いは、今までの成果を踏まえた新たな段階に入ったのです。

5月1日の全都野宿労働者統一メーデー行動は、この新たな闘いに向けた大号令です。「自立支援センターをもっと作れ！」「センターに入った仲間に仕事をつくれ！」「病人や高齢者にまともに生活保護を出せ！」の三つのスローガンを掲げて私たちは前進します。自らの手で確かな未来を切り開く野宿の仲間の闘いに是非、ご注目ください。

3・7 被災から1ヶ月 追悼集会開かれる

5人の死傷者を出した西口地下火災から1ヶ月経った3月7日、亡くなった4人の仲間を追悼し、生き残った者がこれからどう生きていくかを確認しあうため、「3・7 被災から1年 追悼集会」が開催されました。集会は火災以降、西口地下に暮らしていた仲間の多くが臨時施設「なぎさ寮」に入寮したことを考慮して、「なぎさ寮」に近い大森の集会場で開催され、寮の仲間、新宿現地の仲間、山谷や渋谷などで野宿をしている仲間など約210人が参加しました。全員による黙祷、火災以降の状況をまとめたビデオ上映の後、新宿連絡会の事務局メンバーが基調的な弔辞を述べ、その中で「ダンボール村からの発展の経路」を具体的に示しえなかった連絡会の運動が4人の仲間の死を招いてしまったことを総括し、その上で今回、行政から引き出した「自立支援センター」をより仲間の利益にかなうものにしていくことで、「発展の経路」を具体化していく闘いを進めていくことが提起されました。

(詳しくは「新宿ダンボール村通信特別号」を参照のこと)

また各寮で「生活改善要求委員会」を作って闘っている仲間、新宿現地に残って生活している仲間からもアピールがあり、それぞれの場所で闘いを進め、再び5・1メーデーで再会することを誓って散会しました。

2・19 新宿福祉交渉

火災以降、新宿西口地下広場で生活していた仲間172名が臨時施設「なぎさ寮」に入寮しました。この人たちに対しては入所の期間限定はなく、4月以降の「自立支援

センター」への移動が約束されました。しかし一方で、火災以前に越冬対策の二週間宿泊の枠で「なぎさ寮」に入寮していて、火災のために帰る場所がなくなった人など本来、今回の対策の対象でありながらそこからもれてしまっていた人が「なぎさ寮」に数十人いました。放っておけばこの人たちは2月末から3月初めに期限切れで退所させられてしまうため、新宿連絡会と「なぎさ寮」の有志は、この問題に関する緊急行動として2月19日、新宿区福祉事務所に申し入れと団体交渉を行ないました。

交渉の場には「なぎさ寮」の仲間約60人も遠いところから駆け付けてくれ、新宿区側から「関係諸機関と再協議する」という回答を引き出すことができました。しかし最終的には4月以降の「自立支援センター」の定員枠の問題がネックになり、この人たちのセンターへの入所は認められず、最低限の措置として病院に通院中の仲間のドヤや寮への入所を行なわせるにとどまりました。この人たちに限らず、今回、センター入所の枠に入れなかった仲間の問題は今後の大きな課題となります。

なぎさ寮生活改善要求 委員会の闘い

新宿連絡会は「なぎさ寮」への面会・交流行動を週二回続け、「自立支援センター」の進捗状況について伝えるとともに、寮中の設備・待遇問題について寮の仲間と話し合ってきました。そのうち「なぎさ寮」の仲間たちは自分たちで「生活改善要求委員会」を結成し、3月初めから寮内で設備・待遇問題に関するアンケート調査を行ないました。そしてその中で出た声を要求にまとめ、3月17日、寮の管理運営に責任を持つ行政である特別区・人事厚生事務組合に

対して申し入れを行ないました。申し入れでは、洗濯機や物干し場、浴室などの設備の不備や下着などの不足といった生活上の個別具体的な問題点の改善を求めるとともに、プライバシー保護のため大部屋方式の廃止といった要求も盛り込まれました。特人厚側は、「すぐさま返答できる立場にない」との回答を繰り返しましたが、施設設置の主体である東京都や23区に対してこうした声を伝えていくことを約束しました。今年1月の「さくら寮生活改善要求委員会」の申し入れに続き、施設の入所者自身が待遇改善に関して声を挙げたことの意義は大きく、こうした声を受けて4月からの「自立支援センター」では大部屋方式が廃止されることになりました。

三建による撤去を阻止！

新宿現地では、年度末の予算消化のためか3月になってから「さくら寮」の前、東口自転車置き場など各地での撤去が相次ぎました。3月26日に都庁わきの歩道橋下で東京都第三建設事務所（三建）が6軒のテントを撤去しようとしていることを察知した新宿連絡会は、当日、そこで暮らしている仲間と共に緊急の抗議行動を行ない、三建を待ち構えました。そしてこのこの現れた三建の職員を取り囲み、対策なき違法な追い出しをやるなど追及。慌てた職員は「警告はしたが、あれはお願いであって強制ではない」などと弁明し、最終的に「強制撤去はしない」という言質をかちとることに成功しました。この行動により、連絡会が西口地下を自主退去したことで「安心」した行政・民間が便乗的に追い出しをするという動きに一矢を報いることができました。ダンボール村はなくなりましたが、連絡会が「撤去反対」の旗を下ろしたわけはありません。他にいく場所がないのに

「出て行け」という不当な追い出しについてはこれからも徹底して反対していきます。

センターようやく開設！

火災以降、「なぎさ寮」に入った仲間が待ちに待った「自立支援センター」がようやく開設されました。地元住民の反対により遅れていた設置が4月初旬にようやく決定し、東京都は北新宿の元消防署仮庁舎と越冬施設「さくら寮」の二ヶ所で「自立支援センター」の暫定実施を行なうことを発表しました。そして「なぎさ寮」に入っていた172人の仲間のうち、生活保護適用で他施設に移るなどした人を除いた約130人が4月17日と24日、それぞれ「さくら寮」と「北新宿寮」に入寮しました。火災から2ヶ月経って、ようやく被災者が仕事を探す条件が整ったのです。5月には、入寮者・新宿連絡会と東京都による団体交渉も予定されています。二つの寮の仲間はそれぞれ自分で仕事を探すこととなりますが、過去最悪の失業率の中、高齢者の就職は容易ではありません。新宿連絡会は、今後とも寮の仲間との交流行動を続けていくと共にセンター入所者への雇用創出を求めて、寮の仲間と共に闘っていきます。

日常活動の記録

*パトロールで出会った人数（新宿駅周辺）

1/11 642、1/18 556、1/25 502、
2/1 530、2/8 434、2/15 292、
2/22 292、3/1 280、3/8 310、
3/15 381、3/22 383、3/29 364、
4/5 368、4/12 412、4/19 448

越冬対策の終了、仕事のない端境期の到来により、再び人数が増加しています。炊き出しの数も400食を超えています。

第4回全都野宿労働者統一メーデー

1998年5月1日（金）

午後1時 新宿区柏木公園（新宿駅西口徒歩5分）集合、集会

午後2時 都庁に向けたデモ出発、都知事への署名提出（代表）

中央公園にて集約、4時解散予定

◇統一スローガン◇

- ・誰でも入れる自立支援センターを全都にもっと設置せよ！
- ・センターに入った仲間に仕事を作れ！
- ・アオカン通院をやめさせろ！病人や高齢者に生活保護をまともに
出せ！

4回目を迎える全都野宿労働者統一メーデーは、新宿連絡会主催で行なってきた前回までのメーデーとは違い、山谷・渋谷の各運動団体と共に実行委員会形式で行ないます。現在、上記の三つの要求を掲げた署名活動を全都で展開しており、すでに都内各地で野宿を強いられている仲間1000人以上が署名に協力してくれています。当日の集合も新宿、隅田川（山谷）、渋谷はもちろんのこと、上野、東京駅、池袋にも集合場所を設け、都内6ヶ所から野宿労働者が集結して、都庁に向かいます。

全都から新宿へ！ 新宿から全都へ！ 我々の新たな歩みにご注目ください。

第4回全都野宿労働者メーデー実行委員会

台東区日本堤1-25-11山谷労働者福祉会館気付 ☎030-818-3450

実行委員会参加構成団体

新宿連絡会（新宿野宿労働者の生活・就労保障を求める連絡会議）

渋谷・野自連（渋谷・野宿者の生活と居住権をかちとる自由連合）

日雇全協・山谷争議団／反失業（山谷と新宿をつらぬく反失業闘争実行委員会準備会）

野宿者・人権資料センター開設！

全都の野宿者問題を総合的に調査し、広く社会に発進する専門機関として「野宿者・人権資料センター」が近日、開設されます。詳しくは別紙のピラを参照してください。

連絡先：新宿区大京町3-304 TEL/FAX:03-3226-6845

設立カンパ送り先：郵便振替口座00170-3-29491「野宿者・人権資料センター」